

2022/10/17 (月)

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 6章 9-13節 (新約聖書174頁)

「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。

愛のしるし

昨日16日は「世界食糧デー」でした。私は「平和というのは一つのテーブルで共に食事ができること」だと思っています。でもいま紛争、気候変動、そして新型コロナウイルスで世界は共に食事ができません。どれも人災です。フードロスもそうです。

英和のインスタに「おにぎりアクション」が映っています。「おにぎりで世界を変える」、おにぎりは日本のソウルフード、聖書ではパンがそれに当たります。五千人を養った少年が差し出したのは大麦のパン五つと魚二匹でした。大麦は貧しさの象徴です。

弟子が言うように、それだけでは「何の役に立つのでしょうか」。しかしイエスはパンを取って、感謝して、五千人に分け与えました。わずかなものであっても神様のみ心に沿って用いられるならば、あふれるばかりの恵みに変わるというしるしです。

インスタでおにぎりを持って笑顔で映る皆さんを見ていると、イエスが一緒に食事しているように感じます。皆さんのおにぎりには神の愛がつめられています。少年のパンが世界を、皆さんのおにぎりが世界を、そして神様の愛が世界を変えるのです。

(しばらく黙想しましょう)

わたしたちが願うよりも先に必要なものを与え、願うもの以上のものを与えてくださる主よ、世界では毎日すべての人に必要な分だけの食糧が作られています。しかし2割の人が収穫の8割を独占しています。どうかわたしたちの愚かと過ちを赦し、あなたから与えられた恵みを、あなたのご用のために分かち合い、喜びと感謝を共にささげることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン